

令和4年度 大学教育再生戦略推進費
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
申請書

代表校名 (連携校名)	長崎大学 (熊本大学、鹿児島大学) 計3大学
事業名	次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト ～地域とくらしを支える医療人の育成～

事業の構想等

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 全体構想

①事業の概要等

長崎大学・熊本大学・鹿児島大学が強味を持ち寄り、地域で求められる医療人育成に向けた多彩なオンデマンド教材とVRコンテンツを開発し、ICT基盤（Learning Management System）を拡充させて正規カリキュラムに活用することで学びの能率向上を図り、大学を超えて積極的に学ぶことのできる環境を作り上げる。そして、大学間交流等によって学生と教員の知見を広め、多様な地域に適応できる主体性と柔軟性を養う教育を開発する。VR教育の導入でリアリティを高めた教育を提供し、アクティブラーニングにつなげるとともに、教員に対してVR教育のインストラクター研修を実施し、次世代型教育手法の実践モデルを提示する。3大学に実務基盤として連携教育センターを設置した上で、連携基盤として中心的教員による連携教育合同委員会を組織し、地域で求められる医療人の育成と持続可能な大学間連携教育システムの創設を目指す。

②大学の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

長崎大学は社会の調和的発展に貢献することを全学共通の基本理念として掲げ、地域ニーズに寄り添いつつ地方創生の原動力となり、地域福祉医療などの地域社会の持続的発展に大きく貢献することを基本的目標に定めている。医学部では、課題の探求と解決能力を有し、論理的思考と地域社会に貢献できる能力を身につけることを教育理念・目標として掲げており、本事業で連携する熊本大学と鹿児島大学も同様に、地域医療・地域社会への貢献と問題解決能力の涵養を医学部の教育理念として掲げている。

本事業は、地域ニーズに応え地域社会に貢献する医療人材を養成することはもちろん、地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、チームとして解決に向けた能動的思考によって地域社会をリードすることのできる人材育成を目指した取組であり、連携する3大学の教育理念・使命・人材養成目的とは合致している。さらに、大学改革で最も重要な要点の一つとして教育と社会貢献をあげ、大学教育の改革のためには授業のみならず教員の資質向上が必須である点が指摘されている。本事業で3大学が目指す取組は、地域社会の発展に能動的に貢献できる医療人材の育成に向けた教育と教員資質の双方を向上させる改革の取組であり、大学改革の方向性とも合致している。

長崎大学・熊本大学・鹿児島大学はともに地域枠制度を有しており、奨学金の貸与を伴う地域枠学生の定員はそれぞれ19名・8名・21名となっている。長崎大学は一部を除いて既に診療科指定（内科・外科・小児科・産婦人科・整形外科・総合診療科）がなされており、熊本大学は新たに診療科を指定した地域枠制度の発足を予定していることから、地域で求められる医療人を養成する大学の方針と本事業の目的は明確に合致している。

③新規性・独創性

連携する3大学は、理念や環境、そしてこれまでの経験や活動等からそれぞれに特色や強味を有しており、長崎大学では感染症、総合診療、地域包括医療・ケアに関する教育、熊本大学では救急・災害医療に関する教育、そして鹿児島大学では離島・へき地医療、地域包括ケアに関する教育が特に充実している。この背景には、関連する教員や学内施設はもちろん、学外医療機関等との広域ネットワークが強く関わっており、こうした人的・物的リソースと強味をフルに活用し、本事業で新設する連携教育センターのマネジメントのもと、教員と学生の定期的な大学間交流を実現させ、単位互換制度や連携科目を創設することによって3大学が組織的に学生教育と教員資質の向上を図る取組は新規性が高い。本事業には長崎県・熊本県・鹿児島県が参画するが、県が策定した「キャリア形成プログラム」や「キャリア形成卒前支援プラン」を踏まえつつ、大学と県が地域で求められる医療人の養成はもちろん、将来の職業選択に対する意識の涵養に踏み込んだ卒前教育に協働する枠組み作りは新規的であり、地域医療の維持・向上につながることから意義深い。

各大学の強味を活かし、広い視野に立って多彩なオンデマンド教育コンテンツを作成し、持ち寄ってコンテンツライブラリーを構築する。このライブラリーを共有しながら各大学の教育に積極的に活用し、オンライングループディスカッションや学生・教員の交流と組み合わせ、教育の効率化と学びの深化の両立を目指す。オンデマンド教育コンテンツは、学年や学びのレベルに応じた内容を計画的・継続的に作成するが、学生が主体的にコンテンツ作成に取り組む新規教育プログラムを開講し、学生の主体性教育と事業の持続性を組み合わせた取組を目指す点は独創的である。また、学術認証フェデレーション等を活用して大学のLMS (Learning Management System)の機能を進化させ、大学間連携教育に対応できるシステムと学生習熟度の評価手法を開発・実装していく点は新規的であり他大学の参考となる取組である。

3大学にVR教育環境を整備し、既存のコンテンツに加え各大学で開発したVRコンテンツを共有しながら、遠隔教育等で希薄となりがちなリアリティを高めた教育を低学年から提供し、次世代型教育手法の実践モデルを提示する。VR教育は視野が制限されず、学生があたかも現場空間にいるかのような臨場感と没入感が得られる上、様々な医療現場を再現して繰り返しトレーニングすることが可能となるため、学生の興味を引き出しアクティブラーニングにつなげることが容易となる。今後の医学教育に導入されていくことが想定されることから、3大学で組織的にVR教育のコンテンツと実施体制を開発し、カリキュラムに体系的に導入するとともに、VR教育に対応する教員の育成をあわせて行う取組は独創的であり新規性が高い。

④達成目標・アウトプット・アウトカム（評価指標）

（達成目標）

連携3大学では、医学教育モデル・コア・カリキュラムや社会の変化、医学教育分野別評価等を通して医学教育改革を進めてきたが、医学教育分野別評価報告書では水平的・垂直的統合をさらに進め、プライマリ・ケア教育を一層充実させる必要性が類似した課題として指摘されている。本事業では、上記3大学が自学のカリキュラムを自己評価して課題を抽出するとともに、課題解決に向け、各大学が強味を持ち寄ってお互いの教育を拡充することで、それまで大学独自に改革を試みてきた教育の質を一気に向上させ、地域で求められる医療人の育成と地域医療の確保に貢献することが期待される。コロナ禍に加え、医師の働き方改革やタスクシフトが進められ、医療現場でのon-the-job trainigが難しくなる中、オンデマンド教材やVRコンテンツなど新たな技術シーズを活用した医学教育は、まさに時宜を得た教育改革であり、今後の教育手法や教育効果に好影響を及ぼすことに加え、映像産業界等の他分野に対しても大きな影響を与えることが期待される。

本事業の実施によって、アクティブラーニングと大学間連携・交流が促進され、多様な地域で柔軟性を持ってリーダーシップを発揮できる能力の養成と、地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、解決に向けた行動に主体性を持って取り組む態度の育成につながることを期待される。

（アウトプットと評価指標）

・教育プログラム・コース等の開設数と開設時期

開設数：17、開設時期（プログラム・コース数）：令和4年11月（1）・令和5年1月（2）・令和5年4月（4）・令和5年5月（3）・令和5年8月（1）・令和5年9月（1）・令和5年10月（2）・令和5年12月（1）・令和6年1月（1）令和6年6月（1）

・本事業で構築した教育プログラム等を履修した学生数（うち地域枠学生数）

教育プログラム等を履修する学生（延べ数）：10,656人（うち地域枠学生延べ数：2,171人（地域枠学生延べ数全体の73.3%））

・本事業で構築した教育プログラムにおいて連携する実習受入機関の延べ数

長崎大学：163施設、熊本大学：131施設、鹿児島大学：192施設

・オンデマンド教材等の教育コンテンツの作成数

【長崎大学】リハビリ領域：15分×2、感染症領域：30分×2+VR10分×1、高齢者ケア：15分×2、診療所業務：15分×3+VR10分×1、総合診療（難治性疾患を含む）：15分×2+30分×3、救急医療：15分×2、在宅医療：15分×2、地域包括支援センター：15分×2、訪問看護：15分×2、へき地診療所：15分×2、地域病院：10分×11、消防署（救急搬送）：30分×1

【熊本大学】災害医療：VR15分×1+60分×9、救急医療：VR10分×2+60分×4+15分×3

【鹿児島大学】地域包括ケア：10分×4、BPSモデル・MMS説明：15分×2、離島医療：VR10分×1+15分×6、離島紹介：10分×10、へき地診療所：10分×5、離島医療のリーダーシップ：10分×3、在宅医療：10分×3、離島の救急搬送：20分×2

（アウトカムと評価指標）

・地域枠・地域医療を志す学生の増加

長崎大学医学部では、2021年度に高校生等を対象とした地域医療ゼミナールを開催したところ、次年度（2022年度）の地域枠受験者数は前年比で47%増加した。今後は3大学で連携しつつ地域医療ゼミナールや出前講義等で高大連携を進めるとともに、応募規程等を調整することで入学希望者数（地域枠受験者数）を補助期間中に10%増加させることを目指す。また、地域医療を志す学生の増加を計る指標として、学外医療機関での実習を選択する一般枠学生と県内医療機関の初期研修にマッチする一般枠学生に着目し、ともに補助期間中に20%増を目指す。

・教育プログラム・コース等を修了後の人材のキャリア

県内の初期研修医数と専攻医数、県内で定着勤務している医師数をアウトカム指標とする。本事業の教育プログラム・コース等を修了した地域枠出身医師については、100%の義務勤務履行（県内での初期研修と後期研修を含む）と義務勤務終了後の県内定着率50%以上を目指す。そして本教育プログラム・コース等修了者全体については、50%以上が県内医療機関の初期研修にマッチし、40%以上が県内の専門研修プログラムに登録することを目指す。特に大学病院の専門研修プログラムへ登録する修了医は35%以上を目標とし、大学病院の診療科と地域枠出身医師のローテーションによって県内地域医療に貢献する体制を作る。

・事業成果の発信状況

本事業の特設ホームページとSNS（Facebook, Twitter, Instagram等）を開設し、取組内容や成果、調査・研究結果、コンテンツの一部、学生の声などを発信する。本事業に採択された他大学グループとも連携しながら、連携大学と共同で本事業に関連したシンポジウムを毎年開催し、事業成果や調査・研究結果等を他大学や社会に向けて広く発信するとともに、事業関係者やCG・映像作成分野の関係者等との交流の場を作り、教育コンテンツと教育手法の継続的発展に向けた発想・開発基盤を構築する。また、本事業の成果や調査・研究等については、関連学会や学術誌に積極的に発表する。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 運営体制

①事業実施体制

長崎大学・熊本大学・鹿児島大学の実務基盤として各大学に連携教育センターを設置し、各々の大学で教員と事務補佐員を採用して事業の実施体制を整える。この連携教育センターの教員に、LMS (Lerning Management System) 担当者と各大学の中心的なメンバーを加え、3大学の協働基盤として連携教育合同委員会を構成し、1カ月に1回程度の会議 (コア会議)を開催して連携教育の運営、課題、取組等について協議する3大学のマネジメント会議として位置づける。

各大学には、具体的事業計画の円滑な推進と運営を図ることを目的に、連携教育センターの教員と本事業に関連する学内外の関係者を構成メンバーとする事業推進委員会を設置し、連携教育合同委員会と連携を図りつつ連携教育センターが主導する形で事業の実務委員会として位置づける。

既に3大学で連携教育合同委員会のメンバーは候補者が絞られており、本事業の申請にあたっては候補メンバーと事務員とがweb上で定期的な会議を開催している。候補メンバーの一部は、これまでも学会やイベント等で豊富な交流実績があり、本事業の方向性や内容については3大学で十分に共有されている。また、県の担当者（地域医療支援センター長等）、学外医療機関の責任者、有識者、医師会関係者、関連部門の教員、LMS担当者等からは、既に参加協力の内諾を得ており、一部の関係者は本事業の構想作成に加わっている。長崎大学病院総合診療科と長崎県地域医療支援センターは、長崎県医師会とともに総合診療医養成推進委員会を設置し、日頃より総合診療医の育成に取り組んでおり、本事業実施に向けた連携体制は充実している。

②自己評価体制

本事業による活動全般を管理することを目的に、主に事業責任者と関連するステークホルダーを構成メンバーとする事業評価・管理委員会を設置し、運用実態や成果等について報告を受けた上で事業評価を行い、方向性等について示す上級委員会として位置づける。さらに、本事業評価・管理委員会とは別に外部有識者と医師会長等からなる外部評価委員会を設置し、第三者の立場から本事業を評価し、幅広い観点から事業発展に向けた検討を行ってもらうとともに、評価委員会からの意見を事業活動に反映させていく計画である。

③連携体制（連携校との連携体制や役割分担 等）

本事業では、長崎大学・熊本大学・鹿児島大学がそれぞれの強味を持ち寄り、地域にとって必要な医療を提供することができる医師を養成するための教育プログラムを開発・実施することで、それぞれの大学の教育能力を高め効果的・効率的な教育を提供できる組織的教育環境の整備を目指す。

長崎大学は、熱帯医学研究所をはじめ感染症学を専門とする多くの教室を有し、幅広く精力的な教育・研究は国内外をリードする存在として大学の大きな特色となっている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、これまでの教育に加えVR技術を活用した先進的な教育手法を開発しており、そのノウハウを連携大学と共有することで、教員の指導力向上を含めて教育改革に貢献することができる。平成25年度文部科学省企画「未来医療研究人材養成拠点形成事業」により、離島と本土の地域包括医療・ケアフィールドを活用した先進的な総合診療・家庭医療人材育成モデルを構築しており、コロナ禍においても医療機関や自治体等と連携しつつ広域的な現場教育を展開している。本モデルを連携大学と共有しながら総合診療教育モデルとしてさらに練り上げることで、ポストコロナ時代にあってさらに進化したレジリエントな地域基盤型教育の開発と展開が期待できる。総合診療科をはじめとする各診療科には、希少疾患を含め貴重な症例の記録が蓄積されており、こうした症例を活かして難治性疾患への対応能力を養成するコンテンツ作成に貢献する。

熊本大学では、熊本地震や豪雨災害の経験等を経て災害医療教育に継続的に力を入れており、災害医療教育研究センターを中心に充実した卒前教育を展開している。平成30年度文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業によって、災害医療教育の質を高め、実績を積み上げるとともにeラーニングに活用できる教育コンテンツを多数保有するに至った。感染症パンデミックへの対応にあたっては災害時対応のノウハウが必須であることから、災害被災地としての経験知を連携大学と共有しつつ、リアルな災害医療教育を提供することで本事業に貢献することが期待される。また、熊本市内の3つの救急救命センター（熊本赤十字病院、国立病院機構熊本医療センター、済生会熊本病院）と熊本大学病院が連携して一体的な高度救急医療が展開されており、大学病院と各救急救命センターをローテーションしながら救急医療教育を行うことで、地域に求められる医療対応や効率的・効果的な救急医療の修得に向けた教育の充実が期待される。

鹿児島県は広大な海域に多様な規模の離島が存在し全国一の離島人口を有している。こうした離島では保健・医療・福祉など多くの要素から構成される地域ヘルスケアシステム全般が見渡しやすく、社会資源や地域の特性など背景を理解した上で総合診療・家庭医療教育を実践するための最適な教育フィールドを提供してくれる。鹿児島大学は医学科生全員と他大学の医学生に対して、総合診療・家庭医療を基軸にした包括的な地域医療・ケア教育を離島で展開している。離島の教育フィールドをフルに活用して地域密着型の動画コンテンツ等を作成し、他大学と共有しながら地域に求められる医療について自ら感じ取り、実践できる能動的な学びをサポートする教育の充実が期待される。

④連携体制（都道府県、医療機関等との連携体制や連携の特色 等）

大学と県は、主に地域枠学生や自治医科大学の学生を対象に、各種イベント等を通して県内地域医療について理解を深め、地域医療に従事するモチベーションを高める取組を行ってきた。本事業は、こうした取組に新たな教育手法と教育体制を導入することで、地域理解を促す総論教育はもちろん、総合診療や救急医療、感染症医療など、地域に求められる医療を具体化した上でこれまでの取組を充実させ、地域に必要な医療を実践できる医療人育成の強化につながる。**県の担当者には本事業の事業推進委員会の中心メンバーとして参画してもらう予定であり、既に長崎県・熊本県・鹿児島県からは内諾を得ている。**本事業の発展に向けては、地域の医療機関や自治体、関連する職能団体の協力が不可欠であることから、県や地域医療支援センターには自治体や関係機関をはじめ地域医療対策協議会等との架け橋として、本事業の実施基盤の充実・強化への貢献が期待される。

地域医療機関は、主に地域医療の実践を学ぶ実習施設として参画するが、各施設のオンデマンド教材を作成することで幅広く特色や活動等を発信し、地域枠学生のモチベーションの向上や高大連携に活用する。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する具体的な構想

オンデマンド教材やVRコンテンツなどの教育コンテンツは、本事業期間中に作成・蓄積するとともに他の大学グループとも相互共有の仕組み作りを図り、充実した教育基盤として整備して事業終了後の継続運用に備える。また、医療ヘルスケアに特化した民間VRプラットフォーム等を活用することで、教育コンテンツの拡充と継続運営費の削り込みを図る。人件費や維持費用については、事業終了時点までに整理して絞り込み、大学の教育予算（地域医療実習予算を含む）や県の予算、参画医療機関等からの補助、大学同窓会等からの補助等を活用して継続を目指す。

②事業成果の普及に関する計画

本事業の特設ホームページやSNS（Facebook, Twitter, Instagram等）を開設し、取組内容や成果、学生の声などを積極的に発信していくことで周知を図る。また、日本医学教育学会等の関連学会や関連する学術雑誌等で発表するとともに、3大学合同の報告書を作成・配布することで積極的に発信していく。年に1回程度、3大学合同でシンポジウムを開催して発信するとともに、採択された他の大学グループとも連携してイベント等を企画・開催するなど広く普及に努める。条件が整った段階で本事業で開発した人材育成モデルのノウハウと教材を他大学・他地域に提供し、共同で事業を推進していくことも想定して事業内容を構築する。さらに、全国知事会などの自治体間のネットワークを活用し、行政に向けた発信を進め、他地域への普及を図る。

3. 実施計画

(1) 年度別の計画

令和4年度	①8月 連携教育センターの教員人選開始、内規作成に着手、ICT基盤整備に着手 ②8月 事業推進委員会、連携教育合同委員会、事業評価・管理委員会、外部評価委員会の調整 ③9月 各種内規の整備、令和5年度授業の改編着手、オンデマンド教材作成に着手 ④9月 連携教育センター設立、キックオフミーティング（第1回連携教育合同委員会）開催 ⑤10月 VR教育の準備開始、コンテンツ作成・教育プログラムの実施開始 ⑥12月 3大学単位互換協定の締結、VRコンテンツの作成に着手 ⑦1月 キックオフシンポジウムの開催 ⑧1月 地域医療交流実習プログラムの開始 ⑨3月 第1回事業評価・管理委員会、外部評価委員会の開催、成果報告・情報収集
令和5年度	①4月～3月 2委員会（事業推進委員会、連携教育合同委員会）の開催 ②4月～3月 教育プログラム実施、オンデマンド教材作成、地域医療交流実習プログラム実施 ③9月 令和6年度授業の改編着手 ④12月 3大学合同シンポジウム開催 ⑤3月 事業評価・管理委員会、外部評価委員会の開催、成果報告・情報収集
令和6年度	①4月～3月 2委員会（事業推進委員会、連携教育合同委員会）の開催 ②4月～3月 教育プログラム実施、オンデマンド教材作成、地域医療交流実習プログラム実施 ③9月 令和7年度授業の改編着手 ④12月 3大学合同シンポジウム開催 ⑤3月 事業評価・管理委員会、外部評価委員会の開催、成果報告・情報収集
令和7年度	①4月～3月 2委員会（事業推進委員会、連携教育合同委員会）の開催 ②4月～3月 教育プログラム実施、オンデマンド教材作成、地域医療交流実習プログラム実施 ③9月 令和8年度授業の改編着手 ④12月 3大学合同シンポジウム開催 ⑤3月 事業評価・管理委員会、外部評価委員会の開催、成果報告・情報収集
令和8年度	①4月～3月 2委員会（事業推進委員会、連携教育合同委員会）の開催 ②4月～3月 教育プログラム実施、オンデマンド教材作成、地域医療交流実習プログラム実施 ③9月 令和9年度授業の改編着手 ④12月 3大学合同シンポジウム開催 ⑤3月 事業評価・管理委員会、外部評価委員会の開催、成果報告・情報収集
令和9年度	①4月～3月 2委員会（事業推進委員会、連携教育合同委員会）の開催 ②4月～3月 教育プログラム実施、オンデマンド教材作成、地域医療交流実習プログラム実施 ③9月 令和10年度授業の改編着手 ④12月 3大学合同シンポジウム開催 ⑤3月 事業評価・管理委員会、外部評価委員会の開催、成果報告・情報収集
令和10年度	①4月～3月 2委員会（事業推進委員会、連携教育合同委員会）の開催 ②4月～3月 教育プログラム実施、オンデマンド教材作成、地域医療交流実習プログラム実施 ③9月 令和11年度授業の改編着手 ④12月 3大学合同シンポジウム開催 ⑤3月 事業評価・管理委員会、外部評価委員会の開催、成果報告・情報収集

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学、熊本大学、鹿児島大学								
教育プログラム・コース名	地域医療交流実習プログラム								
取組む分野	総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療、離島・へき地医療								
対象者	医学部生（主に地域枠学生＋地域医療に興味のある学生）								
対象年次	5年次～6年次								
養成すべき人材像	地域の特性や社会資源などの背景を理解した上で、保健・医療・福祉等の多分野と連携した包括的な地域医療・ケアが実践できる人材 地域ヘルスケアシステムに関わる多職種と協働し、良好なコミュニケーションがとれる人材 地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、チームとして解決に向けた思考ができる人材 広い視野を持ち、多様な地域においてニーズに応じた医療活動を実践することができる人材								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療実習（一部の地域枠学生必修、1単位、5・6年次） <p>主に地域枠学生を対象として、多様な地域においてニーズに応じた患者中心の医療を実践できる素養を身に付けさせるため、連携大学の地域医療教育フィールドにおいて1週間の交流実習を行う。各連携大学は、それぞれの地域医療実習フィールドにおいて他大学の学生を受け入れ、持ち味を活かした地域医療実習を提供する。</p> <p>学生は、交流実習に先だって連携大学が作成したオンデマンドコンテンツを視聴することによって理解を深め、効果的な実習につなげる。</p> <p>本プログラムを臨床実習の一部と位置づけ、連携3大学間で地域医療実習の内容やコンセプトを確認した上で単位互換制度を創設し、受け入れ大学が交流する学生の指導・評価を担当する。</p>								
教育内容の特色等 （新規性・独創性）	各連携大学が地域特性を活かして整備している地域医療実習フィールドを活用し、各連携大学の医学生が相互乗り入れによる地域医療実習を体験することで、多様な地域における医療の在り方を学び、知見を広げるとともに主体性と柔軟性を養う。各大学の担当教員や地域医療機関等と連絡を取り合いながら、各地域に関する事前学習を行い、受入と指導の体制を整備することで実習環境と安全性を充実させる。単位互換制度を創設した上で、各大学の臨床実習の正課として位置づける新規の教育プログラムである。 各大学の教員も相互乗り入れで指導にあたることで、教員の指導力向上にも貢献することが期待される。								
指導体制	長崎大学・熊本大学・鹿児島大学の担当教員 地域医療機関の臨床教授等								
開始時期	令和5年1月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次	6	6	12	12	12	12	12	72
	6年次		6	12	12	12	12	12	66
	計	6	12	24	24	24	24	24	138

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学								
教育プログラム・コース名	リーダーシップ養成プログラム								
取組む分野	社会医学、総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療								
対象者	医学部生（主に地域枠学生＋地域医療に興味のある学生）								
対象年次	3年次・4年次								
養成すべき人材像	地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、チームとして解決に向けた思考ができる主体的・協働的な人材 地域課題を調査・研究テーマとして落とし込み、多方面へ配慮しながら調査・研究を実践できる人材 学んだ知識や知見を整理し、選択テーマに関連した職種（保健・医療・福祉関連の職種等）にプレゼンテーションを行う能力を持った人材								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチセミナー（地域枠学生選択必修、11.5単位、3年次・4年次） <p>3年次学生が少人数で研究室に配属され、研究の実践を通して科学を学ぶ選択必修科目「リサーチセミナー」に社会医学・総合診療・地域包括ケア・救急医療・災害医療など地域に求められる医療に関する研究テーマを設定し、主に地域枠学生を配属してリーダーシップ養成プログラムとして開講する。地域で求められる医療や人の健康、社会医学に関するテーマを設定し、自ら関連する資料を収集した上で、調査や現場視察等を行って現状や実態を把握するとともに、具体的な問題点等を絞り込み、解決に向けた方策を考察することで論理的思考能力を養成する。この一連の活動で達成した成果をまとめ、テーマに関連した保健・医療・福祉関連の職種等に対してプレゼンテーションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力と課題解決力を育み、当事者意識を持ちながらリーダーシップを発揮することのできる医療人材を養成する。 								
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	地域に求められる医療人の資質として、当事者意識を持って自ら課題を感じ取り、自主的・協働的に課題解決に向けた論理的思考を進め、実践することのできる能力があげられる。従来の教育は、知識の習得、見学・体験実習、意見交換、レポート課題など、受動的な教育手法が主体であったが、本プログラムでは、学生自身が答の定まっていない課題に向き合い、多様な職種と強調しながら解決に向けた論理的思考能力を育むアクティブラーニングを推進する。学生が自ら考え、能動的に動くことで、地域社会で求められているリーダーシップを養う。								
指導体制	長崎大学の担当教員 地域医療機関の臨床教授等								
開始時期	令和5年1月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次	4	6	6	6	6	6	6	40
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
									0
	計	4	6	6	6	6	6	6	40

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学								
教育プログラム・コース名	臨床実践教育強化プログラム								
取組む分野	総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療、感染症、地域医療								
対象者	医学部生全員								
対象年次	1年次・2年次・3年次・4年次								
養成すべき人材像	<p>多様なニーズや社会変化に柔軟に対応し、患者中心の医療・ケアが実践できる人材 医療・ケア・災害の現場で起こりうる状況を推測し、適切な対応等について思考と実践ができる人材 医療・ケアの現場や災害現場の隅々にまで目を配ることができ、適切な対応等について思考と実践ができる人材 患者や利用者の診療・対応にあたって、自ら所見や課題に気づき適切に対応できる能力を持った人材 VR教材等の新たな教育手法を駆使し、医学教育の発展に貢献することのできる教育人材</p>								
科目等詳細	<p><演習型科目> 多様なニーズや社会変化に対応できる医療人材の育成と人間的成長を促すことを目的に、医療や医学にかかわる多彩な内容をテーマとして、1年次から4年次にかけて講義・演習・実習で構成された科目「医と社会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を配置している。この「医と社会」の内容にオンデマンド教育とVRコンテンツを導入することで計画的・発展的に改変・拡充し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人の育成に向けた教育プログラムとして再編強化する。</p> <p>・医と社会Ⅰ（必修、2単位の一部、1年次） 医療面接や身体診察、コミュニケーションスキル、チーム医療、リハビリテーション等の初歩について講義・演習と実習を組み合わせる「医と社会Ⅰ」については、地域医療、総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療等の視点から初年次に学ぶべき内容を再構築し、オンデマンド教材とVRコンテンツを活用した教育手法を導入することで充実化・効率化を図る。VRコンテンツを活用した教育では、仮想空間の中でリアルなシミュレーション教育を繰り返す教育プログラムを構築し、特に手洗い、防護服の着脱、ゾーニング等の感染防御教育については、入学後早期に実施して感染防護スキルを身につけさせる。また、オンデマンド教育を効果的なリハビリ施設実習へとつなげる導入教育として位置づける。</p> <p>・医と社会Ⅱ（必修、2単位の一部、2年次） 高齢者施設での体験実習と組み合わせる介護やリハビリテーション等を学ぶ「医と社会Ⅱ」にオンデマンド教材とVRコンテンツを活用した教育手法を導入し、高齢者施設や介護、リハビリテーション等についての理解を深めるとともに、効果的な高齢者施設の体験実習へとつなげる導入教育として位置づける。特にVRコンテンツを活用した教育については、仮想空間の中でリアルな高齢者医療・ケアのシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、高齢者への適切な対応等について修得させる。</p> <p>・医と社会Ⅲ（必修、2単位の一部、3年次） 診療所実習と組み合わせる患者の診察法やチーム医療等について学ぶ「医と社会Ⅲ」にオンデマンド教材とVRコンテンツを活用した教育手法を導入し、診療所での診療や初期救急、コミュニケーション等について理解を深めるとともに、効果的な診療所実習へとつなげる導入教育として位置づける。特にVRコンテンツを活用した教育については、仮想診察室のなかでリアルな診療や初期救急等についてシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、総合診療の実践法や地域で求められている診療所業務について修得させる。</p> <p>・医と社会Ⅳ（必修、1単位の一部、4年次） 臨床実習直前のタイミングで、医療現場で日常的に遭遇する医療安全や家族対応等の臨床課題、ターミナルケア、地域包括ケアシステム、災害医療等について講義形式で学ぶ「医と社会Ⅳ」にオンデマンド教材とVRコンテンツを活用した教育手法を導入し、実践的な臨床業務の理解を深めるとともに、診療参加型の臨床実習へとつなげる導入教育として位置づける。特にVRコンテンツを活用した教育では、多様な医療空間でのシミュレーション教育を繰り返し、医療対応だけでなく多様なコミュニケーションとマネジメント能力、危機管理能力の養成を図る。</p>								
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	「医と社会」は、医学や医療に関する幅広い内容を含んだオムニバス形式の科目で、社会の変化や学生の学びのレベルに応じて柔軟に編成し、学びのプロセスと授業科目全体を関連づけて裏打ちする貴重な存在である。本事業では、連携大学とともに作成するオンデマンド教材とVRコンテンツを「医と社会」に積極的に導入することで、1年次から4年次にわたる「医と社会」全体を改変・拡充して学年に応じた学習の整合と効率化を図り、学生自らが能動的に学ぶことのできる環境を整備する。また、VRコンテンツによって臨場感のある現場空間を作り上げ、繰り返しトレーニングすることができる学習環境を整備することで学生の興味を引き出しアクティブラーニングの充実を図る。あわせて教員を対象にVR教育のインストラクター研修を定期的実施し、VR教育に対応できる指導者を育成する。連携3大学が強味を活かしてオンデマンド教材とVRコンテンツを作成し教育に活かすことで大学の教育力を強化し、あわせてVR教育等を使った教育に習熟した教員を育成する取組は先進的・獨創的であり、医学教育の発展に資するモデルの提案につながると考える。								
指導体制	連携教育センター・地域包括ケア教育センター・総合診療学・地域医療学・感染症学・救急医学の教員								
開始時期	令和4年11月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		115	115	115	115	115	115	690
	2年次	120	120	115	115	115	115	115	815
	3年次		120	120	115	115	115	115	700
	4年次		120	120	120	115	115	115	705
	5年次								0
	6年次								0
									0
	計	120	475	470	465	460	460	460	2,910

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学								
教育プログラム・コース名	地域医療医学ゼミ								
取組む分野	地域医療、総合診療、地域包括ケア								
対象者	医学部生（主に地域枠学生＋地域医療に興味のある学生）								
対象年次	2年次・3年次・4年次								
養成すべき人材像	地域医療に関する分野（テーマ）について深く理解し、基本的なレベルを超えた知識・スキルを身につけ実践できる人材 主体的に行動し、課題の発見から調査、分析、討論、資料作成を行いプレゼンテーションができる人材 多面的に配慮ができるマネジメント能力を身につけた人材								
科目等詳細	<p><演習・実習型科目></p> <p>少人数で特定の分野を深く掘り下げる学習を行い、特定分野の深い理解を促すとともに医学・科学に対する探究心・問題解決能力の育成を目指す科目として「医学ゼミ」があり、この医学ゼミの新たな分野として「地域医療医学ゼミ」を開講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療医学ゼミ（必修、1単位、2・3・4年次） <p>医学部医学科2・3・4年次の地域枠学生あるいは地域医療に興味のある学生から、それぞれ3名ずつの計9名を定員として新たに「地域医療医学ゼミ」を開講し、担当教員の指導のもとで自らテーマを設定し、講義・資料探索・インタビュー等によって基本レベルを超えて学びを深める教育プログラムを設置する。</p> <p>こうした学びと並行して選択テーマに関連した動画コンテンツを作成する。担当教員の指導のもと、下記の要領で自らテーマを選択して企画を制作し、動画の撮影・収集、編集を経て、作成したコンテンツを地域枠活動報告会等で発表する。さらに、3学年にわたる学生による共同作業を進めることで、学年間の連携強化を図る。</p> <p>事前作業：対象を明確にイメージして、ユーザーに伝えたいコンセプトを決める。 企画制作：絵コンテ（ストーリー、撮影カットなど）を作成し、動画コンテンツの内容を決める。 撮影対象：撮影する現場を決めて依頼や同意手続きなどの準備を行う。 撮影準備：撮影に必要な機材（カメラ、三脚、マイク、ドローンなど）を準備し、関係者とのスケジュール調整を行う。必要な場合は、出演者のキャスティングと台本や台詞を作成する。 撮影：絵コンテをもとに実際に動画を撮影する。 編集：撮影した映像、ロゴやテロップ、BGMなど、必要な素材を用意し、絵コンテに基づいて動画編集ソフトを使ってシーンをつなぎ、テロップやナレーションを入れて編集する。 発表：毎年開催されている地域枠活動報告会で発表し、確認・修正した上でオンデマンド教育コンテンツとして保存する。</p>								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	少人数の学生が集まり、特定の分野について深く学ぶゼミ形式のカリキュラムであるため、標準レベルを超えた学びが得られるだけでなく、学生が主体的に調査や資料探索を行うことで自主性の教育につながる。また、学生に動画コンテンツを作成させることで対象分野のより深い理解が促され、アクティブラーニングにつながる独創性の高い教育の取組であると考えられる。また、学生が主体となって作成した動画コンテンツをオンデマンド教育コンテンツとして活用する取組は、本事業の継続・発展にも寄与する可能性があり、新規的・独創的である。								
指導体制	連携教育センター・地域包括ケア教育センター・総合診療学・地域医療学・感染症学・救急医学の教員、地域医療機関の臨床教授等								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次		3	3	3	3	3	3	18
	3年次		3	3	3	3	3	3	18
	4年次		3	3	3	3	3	3	18
	5年次								0
	6年次								0
									0
	計	0	9	9	9	9	9	9	9

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学								
教育プログラム・コース名	地域包括ケア実習、離島医療・保健実習、地域病院実習								
取組む分野	地域医療、地域保健、総合診療、地域包括ケア								
対象者	医学部生全員								
対象年次	4年次・5年次								
養成すべき人材像	地域の特性や社会資源などの背景を理解した上で、保健・医療・福祉等の多分野と連携した包括的な地域医療・ケアが実践できる人材 地域ヘルスケアシステムに関わる多職種と協働し、良好なコミュニケーションがとれる人材 地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、チームとして解決に向けた思考ができる人材								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <p>多様な地域医療についての実践的な学びを深めるため、臨床実習の一環として3つの学外臨床実習（「地域包括ケア実習」、「離島医療・保健実習」、「地域病院実習」）を医学科生全員の必修科目として開講しており、長崎県全域の保健・医療・福祉・介護等の施設において、それぞれを1週間ずつローテートして業務参加型の臨床実習を行っている。この学外臨床実習の事前学習としてオンデマンド教育を作成・導入することで計画的・発展的に改変・拡充し、地域包括医療・ケアについて理解を深める教育プログラムとして再編強化する。</p> <p>・地域包括ケア実習（医学生全員必修、1.5単位、4・5年次） 高齢化社会の中、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の一員として行動できる医師の育成に向けて、地域包括支援センターや訪問看護ステーション、消防署等において1週間の地域包括ケア実習を開講している。急性期医療から回復期医療、そして在宅医療への流れを理解し、地域包括ケアシステムにおける多職種連携がイメージできるよう、本実習の事前教育としてオンデマンド教育を導入し、地域包括ケアシステムの理解を深めるとともに効果的な地域包括ケア実習につなげる。</p> <p>・離島医療・保健実習（医学生全員必修、1.5単位、4・5年次） 長崎県離島のコンパクトなコミュニティをフィールドとして、保健・医療・福祉・介護の現場を1週間でローテートして実践業務と有機的連携を体験しながら学ぶ参加型実習「離島医療・保健実習」を開講している。本実習の事前教育としてオンデマンド教育を導入し、地域の特性や社会資源などの背景と地域に根付いている地域ヘルスケア全般にわたって理解を深め、効果的な離島医療・保健実習につなげる。</p> <p>・地域病院実習（医学生全員必修、1.5単位、4・5年次） 地域中核病院の機能と役割を学ぶため、長崎県本土の臨床研修病院に1週間滞在する診療参加型実習「地域病院実習」を開講している。地域病院に関するオンデマンド教材を作成し、事前教育としてオンデマンド教育を導入することで、地域中核病院の機能と役割について理解を促すとともに効果的な地域病院実習へとつなげる。</p>								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	長崎大学医学部の離島医療・保健実習、地域病院実習、地域包括ケア実習は、2004年度に医学部医学科生全員を対象としてスタートし、改良と拡充を続けてきた地域医療教育の根幹をなすカリキュラムの一つである。長崎県離島のコンパクトな地域コミュニティと、そのコミュニティに根付いている包括的な地域医療・ケアと多職種連携の現場を最適な教育フィールドとして捉え、医学部医学科生に加え歯学部・薬学部・保健学科の学生が一部共修形式で実施する地域医療実習を作り上げ、このための地域拠点（離島医療研究所）を長崎県五島中央病院内に設置し教員を配置している。この教育に地域包括ケア実習と地域病院実習を加えて、多岐にわたる地域ヘルスケアシステム全体を体験しながら学ぶ実践教育を構築した。これまでに練り上げた地域医療教育の内容、組織的・計画的な展開様式、マネジメント体制、指導体制（臨床教授制度＋臨床教育マイスター制度）、連携・連絡体制、FD/SDの実施体制等は効果的であり独創的である。この多岐にわたる実習施設の機能や役割をイメージすることは簡単ではないことから、広く各実習施設に関するオンデマンド教材を作成し、各実習の事前教育として導入するとともに連携大学に提供する取組は、地域のヘルスケア全般の理解促進とノウハウの横展開に貢献する新規性・独創性の高い取組である。								
指導体制	連携教育センター・地域包括ケア教育センター・総合診療学・地域医療学・感染症学・救急医学の教員、地域医療機関の臨床教授等								
開始時期	令和6年1月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次		24	120	120	120	115	115	614
	6年次								0
	計	0	24	120	120	120	115	115	614

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学								
教育プログラム・コース名	地域医療総合演習								
取組む分野	地域医療、総合診療								
対象者	医学部生（地域枠学生、および地域医療に興味を有す学生）								
対象年次	5年次								
養成すべき人材像	地域医療における問題点を抽出し、その解決法を自ら模索し実行できる人材								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療総合演習（選択、0.5単位、5年次） <p>熊本大学では熊本県医師就学資金貸与学生を主な対象として、県内地域の理解を深め、将来の地域での勤務のための素地を作ることを目的に、義務を償還するために必要な制度の理解、地域医療に関する様々なテーマで毎月1回の「地域医療ゼミ」を学生主体で開催している。</p> <p>今回本事業により新たに導入するコースとして、「地域医療総合演習」を実施する。本科目履修学生は、従来行われていた地域医療ゼミ開催に関して準備段階から参画する。具体的には、年間のゼミで取り扱うテーマの決定、講師選択、交渉、準備、そして地域医療ゼミを実施することが含まれる。地域医療ゼミの運営を通して、自身の学習すべき目標、地域医療の問題点等を知り、学生自身が将来、実際に勤務する具体的なイメージをつかむための学習方略について学生自身で検討し実行することにより、リーダーシップ、コミュニケーション能力、企画力の向上が期待できる。</p> <p>地域医療ゼミへの参画状況、実施した地域医療ゼミの活動報告書、幹事としての省察（レポート）などをもとに総合的に評価する。</p>								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	履修学生自身が講義や実習を企画運営することに特色がある。								
指導体制	特任教員および大学病院地域医療支援センター教員にて指導する。								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次		5	5	5	1	8	8	32
	6年次								0
									0
	計	0	5	5	5	1	8	8	32

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学								
教育プログラム・コース名	地域医療実習プログラム (1) 地域医療・福祉体験実習コース								
取組む分野	地域医療、社会福祉・介護								
対象者	医学部生 (全員)								
対象年次	1年次								
養成すべき人材像	医学的視点に偏ることなく医療と社会のかかわりを学び、多職種と連携し地域医療の現場で、将来活躍することのできる人材								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <p>・R5年度 地域医療・福祉体験実習コース (全学生必修、1.5単位、1年次)</p> <p>本プログラムは、地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通じ、地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を、医学部低学年から段階的に身に付けることを目的とした実習コースである。本実習の後に続く他の実習コースへ、発展性をもって継続していく。医学部6年間を通じそれぞれの段階に応じた内容となっており、1年生で行う“地域医療・福祉体験実習コース”は、その導入となるものである。</p> <p>本プログラムでは、高齢者保健・福祉施設、心身障がい児(者)施設、慢性疾患療養施設などでの実習を行う。本事業により、事前学習にオンデマンド教材とVRコンテンツを活用した教育手法を導入し、高齢者施設や介護、リハビリテーション等についての理解を深め、効果的な高齢者保健・福祉施設などでの実習へとつなげる。特にVRコンテンツを活用した教育については、仮想空間の中でリアルな高齢者医療・介護のシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、高齢者への適切な対応等について修得させ、実際の実地実習に応用させる。実地実習では、医学的視点に偏ることなく医療と社会のかかわりを学ぶ。さらに多職種がかかわる地域医療の現場に赴くことで、多職種連携の実際を学ぶ機会とすることができる。地域における福祉・介護などの関係機関との連携を通じ、多職種連携・多職種協働やチーム医療を低学年の視点から具体的にイメージできる学習の場とする。また地域医療が、子供から大人まで全世代の健康にかかわることを実感し学修できる機会とする。具体的には、心身障がい児(者)施設、慢性疾患療養施設では、診療の流れの実感、スタッフとのコミュニケーション、在宅診療での家族への配慮などを体験する。高齢者保健・福祉施設では、高齢者とのコミュニケーション、利用者と接する際のマナー、実際の対応などを体験することになる。</p> <p>(学修目標の設定) 地域医療のイメージを、具体的に獲得する機会となるよう、学生各人が、実習先施設の特性に応じた、学習目標を設置し明確にすることで、単なる見学実習にとどめない。目標は、学生、大学教員、また受け入れ施設側との共同で設定する。</p>								
教育内容の特色等 (新規性・独自性)	地域医療実習プログラムは、医学部低学年から高学年のそれぞれの段階に応じた内容で3コースから構成されており、次の段階の地域医療実習へ、継続性、発展性を持った内容となっている。本コースでは、将来の地域医療の活躍につながることを期待した、準備段階としての教育内容とする。今回新たに、本実習の事前学習にオンデマンド教材やVRコンテンツを利用することで、実習施設の概要や実際をよりリアルに予習でき有意義な実習となることが期待できる。それぞれの学生は性格の異なる施設での実習となるため、実習終了後の振り返りの会では、経験共有、目標達成の確認、更に将来への課題の確認を重視する。またウェブを利用することで、実習先の指導スタッフの参加、フィードバックも期待できる。評価については、実習先での360°評価に加え、設定した目標達成についてのレポート提出を求め、評価を行う。								
指導体制	特任教員、および臨床医学教育センター教員による、オリエンテーションと振り返りを行う。さらに実習先での指導医、スタッフに対してFD、SDを行うことで、教育の質を担保する。								
開始時期	令和5年9月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		110	110	110	110	110	110	660
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	110	110	110	110	110	110	660

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
 ※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学								
教育プログラム・コース名	地域医療実習プログラム (2) 地域医療実習コース								
取組む分野	地域医療、総合診療、救急医療、内科、外科、小児科、産科・婦人科								
対象者	医学部生 (全員)								
対象年次	3年次								
養成すべき人材像	患者の疾病だけではなく生活背景や家族・介護者にも目を配る姿勢、患者の生活背景を考慮した診療、医療資源の限られた状況での診療、介護予防活動へ配慮できる人材。								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <p>・R5年度 地域医療実習コース (全学生必修、1単位、3年次)</p> <p>本プログラムの目的は、6年間を通じそれぞれの段階において、地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を早期から身に着けるための実習である。この“地域医療実習コース”では、医学部での基礎、臨床科目の学修経験知識が加わり連動した実習となる。</p> <p>(実習の場、期待される実習内容) 本プログラムでは、診療所、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センターでの実習を行う。地域医療支援病院及びこれに準ずる施設も可とする。</p> <p>今回本事業により新たに、事前学習としてオンデマンド教材とVRコンテンツを活用した教育手法を導入し、診療所などでの診療や初期救急、コミュニケーション等について理解を深め、効果的な実習へとつなげる。特にVRコンテンツを活用した教育については、仮想診察室のなかでリアルな診療や初期救急等についてシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、地域で求められている診療所業務について修得し、実地実習に繋げる。</p> <p>それぞれの施設では、医療面接から基本的な身体診察の機会に積極的に参加し、コミュニケーション、患者と医師の関係を学ぶ。診療所では、外来診療に加え、訪問診療により在宅療養をおこなっている患者への医療にも参加することで、患者の疾病だけではなく生活背景や家族・介護者にも目を配る医師の姿勢について学ぶ。在宅療養支援診療所では、患者の生活背景を考慮した診療に加え、医療資源の限られた状況での診療について学ぶ。訪問看護ステーションは、在宅療養支援診療所とともに、幅広いケアの中での密度の高い患者家族との関わりに加え、医療モデルと生活モデルを一体的に学修し、在宅リハビリテーションについても学ぶ。地域包括支援センターでの実習についても、地域包括ケアの拠点として、高齢者への具体的な支援活動や、住民を対象とした介護予防活動の推進について学ぶ。</p> <p>オリエンテーションでは、実習趣旨の確認や学習目標の明確化、設定を行う。学生は、性格の異なる施設での実習となるため、実習終了後の振り返りの会では、経験共有、目標達成の確認、更に将来への課題を確認する。またウェブの利用で、実習先の指導スタッフの参加、フィードバックも期待できる。評価については、実習先での360°評価に加え、設定した目標達成についてのレポート提出を求め、評価を行う。</p>								
教育内容の特色等 (新規性・独自性)	地域医療実習プログラムは、医学部低学年から高学年の、それぞれの段階に応じた継続性を持った内容となっている。本実習コースでは、診療所、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センターといった実習先の特性を生かした、他では経験することが困難な教育内容となっている。今回新たに本実習の事前学習にオンデマンド教材やVRコンテンツを利用することで、実習施設の概要や実際をよりリアルに予習でき有意義な実習となることが期待できる。								
指導体制	特任教員、および臨床医学教育センター教員による、オリエンテーションと振り返りを行う。さらに実習先での指導医、スタッフに対してFD、SDを行うことで、教育の質を担保する。								
開始時期	令和5年12月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次		110	110	110	110	110	110	660
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
									0
	計	0	110	110	110	110	110	110	110

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学								
教育プログラム・コース名	地域医療実習プログラム (3) 地域医療クリニカルクラークシップコース								
取組む分野	地域医療、総合診療、救急医療、内科、外科、小児科、産科・婦人科								
対象者	医学部生(全員)								
対象年次	5年次～6年次								
養成すべき人材像	医学、医療の概念を幅広く捉え、地域医療における多様なニーズに対応できる人材。								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <p>・R5年度 地域医療クリニカルクラークシップコース (全学生必修、特別臨床実習(38単位)の中のコース、5-6年次)</p> <p>本プログラムの目的は、6年間を通じ、医学教育モデルコアカリキュラムにある、地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶことにある。これまで行ってきた実習のまとめとして、研修医、専攻医として、近い将来の地域医療の活躍につながることを期待した教育内容とする。本実習コースは、地域医療支援病院で行う。包括的かつ継続的な「地域完結・循環型医療」が社会のニーズとして取り上げられ、これらを提供する現場としての医療、医師の役割を認識する。ここで学ぶべき内容として、コモディティの診療経験、基本的診察手技の経験を重ねることが挙げられる。医療面接から基本的身体診察の機会に積極的に参加し、コミュニケーション、患者と医師の関係を学ぶ。診断と治療の経過に参加することにより、患者中心のチーム医療を学ぶ。さらには、救急医療では、初診患者の対応に参加することで、軽症から重症まで幅広く経験することも可能である。また、多職種が連携し協働する機会に参加する。高齢者に対する医療や介護だけでなく、全世代を見据えた地域保健や関連する地域福祉の現場に関わる。また、予防医療に関して、必要性を認識する機会を持つ。今回新たに作成する動画コンテンツについて、実習中には適宜オンデマンド教材に地域からアクセスし、知識の再確認や地域実習での問題抽出と解決に役立てる。さらに本事業による新規の大学間の交流として、熊本大学の学生による長崎大学、鹿児島大学の地域医療教育プログラムへの参加、また熊本大学が提供する地域医療クリニカルクラークシップコースへの長崎大学や鹿児島大学の学生の参加が可能となっている。</p> <p>実施に当たってのオリエンテーションでは、実習趣旨の確認や学修目標の明確化。設定を行う。さらに今回新たに、オンデマンド教材を活用した教育手法を導入し、地域医療、救急医療、地域福祉についての予習を行う。また実習後の振り返りにおいて、学生は、性格の異なる地域での実習となるため、実習終了後の振り返りの会では、経験共有、目標達成の確認、更に将来への課題を確認する。またウェブを用いることで、本事業としての、長崎大学、鹿児島大学の学生、教師の参加も促す。評価については、実習先での360°評価に加え、経験した内容のチェックリスト、設定した目標達成についてのレポート提出を求め、評価を行う。</p>								
教育内容の特色等 (新規性・独創性)	<p>地域医療に関する三つの実習は、医学部低学年から高学年の、それぞれの段階に応じた継続性を持った内容となっている。特に本実習は、研修医、専攻医として、近い将来の地域医療の活躍につながることを期待した、準備段階としての教育内容となっている。</p> <p>本事業による大学間の交流として、実習3週間のうち一週間は、調整の上、長崎大学、鹿児島大学が提供する大学外施設での実習も選択可能となっている。また更に3週間を、長崎大学や鹿児島大学のプログラム参加施設で実習することも可能である。さらに、当大学が提供する学外の実習施設へ、長崎大学や鹿児島大学の学生を受け入れることもできる。また希望者は、さらに複数チームの他施設での実習を行うこともできる。このように学生のニーズに応じて学生個々の大学間交流プログラムを構築することが可能であることは画期的である。</p>								
指導体制	特任教員、および臨床医学教育センター教員による、オリエンテーションと振り返りを行う。また受入施設指導医等とのFD、SDを行うことで、教育の質を担保する。また大学間での相互乗り入れ実習を行う学生に対しては、受け入れ側、送り出す側両方の役割を持つ、指導体制を整える。								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次		85	85	85	85	85	85	510
	6年次		25	25	25	25	25	25	150
									0
	計	0	110	110	110	110	110	110	660

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学								
教育プログラム・コース名	感染症統合講義								
取組む分野	微生物学、感染防御学、免疫学、血液内科学、呼吸器内科学、消化器内科学、泌尿器科学、脳神経内科学、小児科学、産科婦人科学、皮膚科学、整形外科、眼科学、麻酔科・集中治療、臨床検査医学								
対象者	医学部生（全員）								
対象年次	2年次～4年次								
養成すべき人材像	医学、医療の概念を幅広く捉え、感染症対策における多様なニーズに対応できる人材。								
科目等詳細	<p><講義型科目></p> <p>・R5年度 感染症統合講義（全学生必修、2-4年次）</p> <p>熊本大学医学部医学科では、感染症に対して各専門分野の横断的な知識を習得させ、より高度な感染症に対応できる医療人を養成することを目的として、2年次微生物学、感染防御学、免疫学、3年次、4年次の臨床系科目（血液内科学、呼吸器内科学、消化器内科学、泌尿器科学、脳神経内科学、小児科学、産科婦人科学、皮膚科学、整形外科、眼科学、麻酔科・集中治療、臨床検査医学）のうち感染症に関連する講義について、科目横断的に「感染症統合講義」として実施している。</p> <p>今回本事業において長崎大学にて新たに作成される感染症に関する動画コンテンツを感染症統合講義に追加し、学生の感染症に関する理解をより深める。</p>								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	熊本大学にて、感染症について段階的、学年横断的に学習するプログラムにおいて、今回感染症研究・教育を強みとする長崎大学の感染症教育コンテンツを追加し学ぶ機会をすることにより、これまで以上に深く広く感染症に関する学修が期待できる。								
指導体制	感染症統合講義担当講座教員								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次		110	110	110	110	110	110	660
	3年次		110	110	110	110	110	110	660
	4年次		110	110	110	110	110	110	660
	5年次								0
	6年次								0
	計		0	330	330	330	330	330	330

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学								
教育プログラム・コース名	地域包括ケア演習								
取組む分野	地域医療学分野（総合診療）								
対象者	医学部医学科生全員								
対象年次	4年次								
養成すべき人材像	患者（住民）の身体的・精神的・社会的問題から、患者の包括的ケアを考える事が出来る人材								
科目等詳細	<p><講義・演習型科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア演習（必修、1単位、4年次） <p>目的：離島やへき地での医療資源の乏しい地域での地域包括ケアを、患者や環境因子の把握を合理的に行える方策である、biopsychosocial model (BPS model) とmacro-micro system (MMS) 含めて総合的に学び、患者に応用できる。地域医療のリーダーとして、多職種との連携を図ることができる。</p> <p>方略：①患者の生物学的・精神的・社会的な問題点を、BPS modelを用いて整理する方法を英文文献を抄読し学ぶ。そして、模擬症例をこれに当てはめて考察する（シミュレーション教育）。</p> <p>※模擬患者を取り巻く環境や周囲の状況委などを、動画を用いて作成し、患者の状況を深く理解できるようにする。</p> <p>②患者を取り巻く様々な組織、家族、医療人、システムについて、模擬患者を取り巻く環境をMMSに当てはめて認識する。</p> <p>③模擬患者を上記2つの方法で考察し、具体的な地域包括ケアの方策をグループワークで検討する。</p> <p>評価法：①地域包括ケアに導くためのツールに関する英文抄読内容 ②模擬患者への応用内容（関係図式）を評価 ③学生同士のディスカッションの態度を評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア講義（3コマ） <p>患者を取り巻く地域包括ケアシステムを講義を通して学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア演習（12コマ） <p>※すでにある科目、「地域・総合診療・症候」の中に新規に組み入れ大幅に変更する。</p>								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<p>地域包括ケアにおいて、患者を評価するbiopsychosocial model (BPS) を用いた評価に加え、macro-micro system (MMS) を用いて、医療資源をシステムとして捉える手法を英文論文を抄読することにより理解する。また、その学びを他の学生に教授することにより、学習を深めることができる。この2つの手法を実際の学生が以前に経験した過去の症例（模擬症例）に当てはめて省察し、患者への地域包括ケアとして、どのようなアプローチが可能かをグループディスカッションにより討議し、コミュニケーション能力も身に着けることができる。新規性も独創性も高い。基本的に対面講義が可能な場合でもオンラインでの双方向講義が可能である。</p> <p>一種のシミュレーション教育として位置づける。これまでpreliminaryに6年生に同様の模擬症例を用いて行ってきたが、かなり効果的であったことから、地域包括ケアの提供が難しい状況の患者をどのようにケアするかについて、BPSとMMSを用いて段階的かつ機能的に考察する教育を体系化しシステムティックな演習形式の正課として確立させる。模擬症例を取り巻く環境等を追加する形で動画を作成するなど、リアリティを持たせて、3大学の同様のカリキュラムに提供する。2つのツール（BPS、MMS）を用いて、多職種に対して説明ができるようなレベルに到達させる。</p>								
指導体制	特任教員及び、地域医療学分野教員による、最終的な地域包括ケア提供内容の振り返りを行う。								
開始時期	令和5年5月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次		124	115	120	118	118	118	713
	5年次								0
	6年次								0
									0
	計	0	124	115	120	118	118	118	713

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学								
教育プログラム・コース名	初期地域医療実習1、初期地域医療実習2								
取組む分野	地域医療学分野（総合診療）								
対象者	地域枠学生、地域医療に興味のある医学生 同郷の自治医科大学医学生（1・2年次）								
対象年次	1年次・2年次								
養成すべき人材像	地域の生活、文化、自然環境、医療環境をよく理解し、地域の実情を踏まえて患者に対応できる 医師、住民や医療関係者とのコミュニケーションが図れる医療人								
	<p><実習型科目></p> <p>・臨床実習（地域枠医学生・希望一般学生選択、各1単位、1年次：初期地域医療実習1、2年次：初期地域医療実習2）</p> <p>目的:地域特有の生活、文化、自然環境、医療環境に関する素養を早期から身に付けるため、現地の医療機関を中心としたフィールドにおいて、滞在型の医療見学、体験、地域観察の実習を行う。</p> <p>方略:実習前に、様式2(3)に記載の動画コンテンツや自大学作成の動画コンテンツを含め視聴する。夏季休暇期間を主に利用し、離島・へき地に4泊～5泊滞在し、現地の診療所・病院、役場などを見学する。医療機関では、直接住民（患者、その家族）と接しコミュニケーションを取る。非観血的な検査（血圧測定など）を行い、その手技を学ぶ。多職種（看護師、医療事務、薬剤師、理学療法士など）と接する機会を設ける。体験した内容を、他の地域枠医学生や関係者の前で発表する。</p> <p>夏季実習に同行する、自治医科大学医学生（1・2年次）にも、視聴をお願いする。</p> <p>評価法:①360度評価を実施する。 ②教員と一緒に行動し、直接態度などを判定 ③発表会の内容</p> <p>新規科目である</p>								
教育内容の特色等 （新規性・独創性）	<p>実習前に、様式2(3)に記載の動画コンテンツを視聴することで、地域医療に関する事前学習が効率的に可能となり、実習の学習効果が上がる。動画コンテンツは、3大学が作成し、サーバーに格納し、必要なコンテンツが利用できるようにする。地域枠の1年生と2年生と一緒に実習させることで、小さな屋根瓦式指導体制を構築でき、より深く地域医療を学ぶことが出来る。本実習では、同郷の自治医科大学医学生（1・2年次）も同行する為、彼らにも事前ビデオ視聴をお願いし、情報を共有する事が出来る。</p> <p>医療関係者だけでなく、役場、住民と接する機会を設け、地域が医療者を育てる意識を、地域の住民に醸成出来る。地域枠医学生は、将来の就労場所として深く認識できる。教員が実習に付き添い、十分な振り返りができる。将来同じ職場に従事する他学年同士の一定期間の交流は重要であり、新規性も独創性も高い。動画コンテンツは、学生と教員と一緒に3大学が作成し、サーバーに格納し、必要なコンテンツを利用できるようにする。これらのコンテンツは毎年作成し、段階的・継続的により充実したライブラリーを構築していく。</p>								
指導体制	現地の医療関係者から直接指導を受ける。また、特任教員及び地域医療学分野教員や、地域医療支援センター教員が実習に付き添い、指導の補助を行う。								
開始時期	令和5年8月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		18	18	18	18	18	18	108
	2年次		21	18	18	18	18	18	111
	3年次								0
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	39	36	36	36	36	36	219

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学・長崎大学								
教育プログラム・コース名	地域医療研究								
取組む分野	地域医療学分野（総合診療）								
対象者	地域枠医学生、地域医療に興味のある医学生								
対象年次	3年次（鹿児島大学）、1年次・2年次・3年次（長崎大学）								
養成すべき人材像	離島やへき地の調査・研究を通して、地域の行政組織、医療環境等を理解でき、それを患者に還元できる医師								
科目等詳細	<p><実習型科目></p> <p>・臨床実習（地域枠医学生・一般希望医学生選択、0.5単位、3年次）</p> <p>目的:地域特有の行政、自然環境、医療環境に関心を持つ意識を早期から身に付ける。関係者と接し、研究・調査を計画する事で、コミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>方略:夏休み期間を利用し、離島・へき地等のフィールドにおいて、行政機関・医療機関を中心とした施設で、地域の問題点の抽出し、それに関する調査・研究を行い、学生・教員・関係者の前で発表する。対象フィールドや研究の概要は、同年4-7月に、教員と相談の上決定する。基本的に1課題/1人とする。できるだけ多職種（看護師、医療事務、薬剤師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護士、行政など）と接する機会を設ける。研究調査結果を報告会で発表する。</p> <p>更に、優秀演題を選定し、同年10月頃に開催する長崎大学との合同発表会（地域枠活動報告会）で発表し、地域医療・互いの地域の理解を深める。</p> <p>評価法:①調査・研究内容の発表（内容・プレゼン状況）</p> <p>特色:地域の課題を自分で考える。リサーチクエスチョンから調査・研究に落とし込むスキルを学ぶ。調査研究のための、必要なコミュニケーションを学ぶことが出来る。</p> <p>新規科目である。</p>								
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	地域枠医学生として、自分で研究もしくは調査課題を考える事を通して、地域の問題点を自ら積極的に捉える姿勢が身につく。リサーチクエスチョンから調査・研究に落とし込むスキルを学ぶ事が出来る。調査研究のための、必要なコミュニケーションを学ぶことが出来る。また、医療関係者だけでなく、役場、住民と接する機会ができることにより、コミュニケーション能力を滋養できる。これまでに科目としては施行されてこなかった斬新な教育である。また、地域の医療関係者・行政関係者・住民は、地域が医療者を育てる意識を醸成することが出来る。地域枠医学生は、対象地域を、将来の就労場所として深く認識できる。研究テーマを学生と教員が協議して設定し、基本的に1課題/1人とする事により、内容に責任を持った報告を行うことで、プレゼンテーションスキルを学べる。科目としての新規性や獨創性も高い。								
指導体制	地域の課題・調査内容について、特任教員及び地域医療学分野教員が、一人ひとりと面談し、テーマを決定する。対象先には、教員が最初の繋がりを構築し、学生自身が夏休み期間やその前などに対象先と調整する。								
開始時期	令和5年5月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次		19	21	18	18	18	18	112
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	19	21	18	18	18	18	112

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学								
教育プログラム・コース名	地域医療リーダーシップ1、地域医療リーダーシップ2								
取組む分野	地域医療学分野（総合診療）								
対象者	地域枠学生、地域医療に興味のある医学生。自治医大の地元出身医学生。								
対象年次	1年次, 5年次								
養成すべき人材像	将来の勤務地の自然・文化・医療環境等に深い興味をもち、地域に貢献する意思を持った医師								
科目等詳細	<p><講義型科目> （地域枠医学生選択、他学生選択、0.25単位、地域探訪1：1年次、地域探訪2：5年次） 自治医大学生は任意</p> <p>目的:自身が勤務する可能性がある離島やへき地等の自然、文化、医療機関、住民などをビデオを視聴することにより、地域の認識を深める。5年生は1年生に地域に関して学びのポイントなどを指導する。</p> <p>方略:準備として、教員は、地域枠医学生が将来就労する地域の自然、文化、医療機関、住民などを撮影し、編集する。できるだけ、夏季の地域医療実習中の地域枠医学生（1・2年生）と共に地域を訪問し、一緒に作成するように配慮する（初期地域医療実習1、初期地域医療実習2の中で、地域のビデオも撮影する）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のビデオ視聴（4コマ）2学年共に同じビデオを視聴する ・地域医療のリーダーシップに関するビデオを含む ・討論・発表（1コマ） <p>①学生は、上記の画像を視聴し、地域の特徴を学ぶ。 ②学生同士、自分の感想などを討論し、グループワークで地域医療の在り方、地域医療のリーダーシップに関して考えをまとめる。 ③5年生は、1年生に対し、学びのポイントや、ディスカッションのやり方、プレゼンテーション方法などを指導する。地域医療の在り方、地域医療のリーダーシップに関して考えをまとめる。視聴時間は1年生の時間割に合わせるため、視聴時間が合わなかった5年生はオンデマンドで視聴する。 ④同郷の自治医科大学医学生にも、同じビデオの視聴を推奨し、時間が合えば討論に参加するよう呼びかける。</p> <p>評価法: 学生同士のディスカッションの態度を教員が評価 プレゼンテーション内容を学生同士が評価する。</p> <p>新規科目である。</p>								
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	<p>地域医療実習として現地を訪れたとしても、天候や時間的制約により、多くの情報を常に得ることはできない。ビデオ作製により、必要な情報が多く視聴でき、将来の勤務先の情報を、学年が早い段階で知ることができ、地域医療への興味を高められる。</p> <p>オンデマンド配信も可能であり、学年が上がってからも視聴でき、モチベーションの維持や、自分自身の考え方の変化も知ることができる。</p> <p>ビデオ作製に加わった学生（地域枠医学生等1・2年生）は、より地域医療への興味が高まることが期待される。</p> <p>同県の自治医大医学生は、将来地域枠卒業医師と共に働く地域の情報を、地域枠医学生と共に得、共に感じることができる（多くの就労対象医療機関が、自治医大医師と地域枠医卒業医師は一緒である）。</p> <p>5年生が1年生を指導することで、5年生自身の学びが深まる。更に、将来同じ環境・場所で働く者同士の縦の繋がりができる。</p> <p>地域医療のリーダーシップに関して、指導体験を通して具体的に学ぶことが出来る新規性・獨創性が高いプログラムである。本事業開始以降は、連携大学が強味を活かして作成する動画コンテンツを活用していくとともに、鹿児島大学でもコンテンツ作成を進め、連携大学に提供する予定である。</p>								
指導体制	特任教員による教材動画の作成。特任教員及び、地域医療学分野教員による、ディスカッション及び発表内容の直接指導。								
開始時期	令和5年10月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		18	18	18	18	18	18	108
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次		16	18	19	21	18	18	110
	6年次								0
	計	0	34	36	37	39	36	36	218

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	長崎大学、熊本大学、鹿児島大学								
教育プログラム・コース名	地域医療リーダー育成DX演習								
取組む分野	地域医療学分野（総合診療）、感染症、災害医療、救急医療								
対象者	3大学の地域枠学生、地域医療に興味のある医学生。								
対象年次	4～5年次（大学のカリキュラムに合わせる）								
養成すべき人材像	地域医療で求められる、総合診療、感染症、災害医療、救急医療の知識とスキルを理解し、地域医療のリーダーとしての自覚を持った人材								
科目等詳細	<p><講義型科目> （地域枠医学生選択、他学生選択、0.5単位、5年次） 目的:VR装置と、コンテンツを用いて、地域医療で求められる、総合診療、感染症、災害医療、救急医療の分野の知識とスキルをリアリティを持って理解し、地域医療のリーダーとしての自覚を涵養する。 方略:準備として、教員は、VRコンテンツ（総合診療、感染症、災害医療、救急医療）を製作する。 ①学生は、上記のVRコンテンツを用いて地域での総合診療、感染症、災害医療、救急医療の現場を疑似体験し、必要な知識とスキルの獲得の重要性を認識する。 ②学生同士、自分の感想などを討論し、グループワークで地域医療の在り方に関して考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VRコンテンツ（総合診療、感染症、災害医療、救急医療）演習（6コマ） ・討論・発表（1コマ） <p>評価法: VR教材での学習態度をインストラクター教員が評価 プレゼンテーション内容を学生同士が評価する</p> <p>新規科目である。</p>								
教育内容の特色等 （新規性・独創性）	学生は、地域医療の現場で、リーダーとして求められる知識、行動、スキルについて、作成されたVRコンテンツを用いて疑似体験により学ぶ。VRコンテンツは、既存の感染症、救急医療、総合診療も使用するが、長崎大学、熊本大学、鹿児島大学が作成したオリジナルコンテンツも用いて学ぶ。 疑似体験が出来るVRコンテンツを用い、リアリティーを持った教育方略となり、新規性・独創性が高い。 3大学で各々が優れる分野のVRコンテンツを作成し、コンテンツを共有しながら養成したインストラクター教員が指導する。インストラクター教員育成（FD/SD）をあわせて行う。								
指導体制	特任教員による教材動画の作成。特任教員及び、地域医療学分野教員による、ディスカッション及び発表内容の直接指導。								
開始時期	令和6年6月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次			42	42	42	45	45	216
	6年次								0
	計	0	0	42	42	42	45	45	216

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学								
教育プログラム・コース名	「新興・再興感染症」								
取組む分野	地域での感染症管理								
対象者	医学科4年生全員								
対象年次	4年次								
養成すべき人材像	新規・再興感染症に関し、深い知識と感染対策スキルを持って、感染対策ができる医師								
科目等詳細	<p><講義型科目> (地域枠医学生・希望する一般医学生選択、2単位、4年次) 目的: COVID-19感染をはじめとする、新興・再興感染症対策は、県内広域の連携が必要である。深い知識と感染対策スキルの基に、感染対策のリーダーとしてのリーダーシップ力が発揮できるように、鹿児島県での経験に加え、長崎大学の感染症対応を学ぶ。 方略: 鹿児島大学教員、鹿児島県感染対策担当者、鹿児島県医師会感染対策理事、鹿児島市保健所、奄美大島の感染対策医師、在宅医療での感染対策経験医師の講義に加え、長崎大学の感染症対策に関するWEB配信講義を行う。 ①学生は、鹿児島県内で経験された新興感染症対策と共に、感染症専門医の重要性を学ぶ。 ②地域での感染対策について、鹿児島県・長崎県の経験から、対策の重要性を学ぶ、 ・鹿児島県関係者・在宅医療関係者の講義(14コマ) ・長崎県の感染対策(1コマ) ・長崎大学作成感染症専門医の重要性(1コマ) 評価法: ・試験 ・レポート作成</p> <p>既存科目「新興・再興感染症」の内容を刷新するものである。</p>								
教育内容の特色等 (新規性・独創性)	令和3年度に新規に設定された、医学科4年次必修科目「新興・再興感染症」は、鹿児島県内の経験を中心に、診断、治療、予防、新薬開発、在宅医療での管理、感染対策(医療機関・行政)、産科対応、検体採取・管理、関係する演習について教授・実施した。これらに、感染症教育の最も進んでいる長崎大学の教員から、長崎県での体験や感染症専門医の重要性に関する講義を加えることで、感染対策に関し知識をさらに深め、感染症に対する関心を高めることができる。長崎大学が作成した感染症分野に特化したコンテンツをオンデマンドで用いるなど、効率的に学びを深める取組として新規性が高い。								
指導体制	長崎大学感染症教員、鹿児島大学教員、鹿児島県感染対策担当者、鹿児島県医師会感染対策理事、鹿児島市保健所、奄美大島の感染対策医師、在宅医療での感染対策経験医師による講義・演習								
開始時期	令和5年10月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次		124	115	120	118	118	118	713
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	124	115	120	118	118	118	713

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学								
教育プログラム・コース名	「麻酔・集中治療・救急」								
取組む分野	麻酔、集中治療、救急、災害医療								
対象者	医学科4年生全員								
対象年次	4年次								
養成すべき人材像	麻酔・集中治療・救急・災害医療に関し、深い知識と感染対策スキルを持って、全身管理と災害への医療人としての対応ができる医師								
科目等詳細	<p><講義型科目> (地域枠医学生・希望する一般医学生選択、2単位、4年次) 目的: 麻酔・集中治療・救急・災害医療の分野では、全身管理の知識・スキルと共に、地域での様々な情報を処理し、対応する能力が求められる。これまでの鹿児島大学での教育に加え、熊本大学の熊本地震や、熊本豪雨への対応の経験を基にした、災害医療県での経験・スキルを教授し、上記知識・対応能力を獲得する。 方略: 鹿児島大学教員等による、従来の講義に加え、熊本大学の災害医療+C21に関するWEB配信講義を行う。 ①学生は、麻酔・集中治療・救急領域の、全身管理、集中治療患者管理を学ぶ。 ②地域での感染対策について、鹿児島県・長崎県の経験から、対策の重要性を学ぶ、 ・鹿児島県関係者・在宅医療関係者の講義(27コマ) ・熊本大学による災害医療(2コマ) 評価法: ・試験 ・レポート作成</p> <p>既存科目「麻酔・集中治療・救急」の内容を刷新するものである。</p>								
教育内容の特色等 (新規性・独創性)	現在鹿児島大学医学科で行っている、4年時必修科目「麻酔・集中治療・救急」では、災害医療に関する内容は十分に行われていなかった。熊本大学は、熊本地震(震度7、2回)や、熊本豪雨を複数回経験し、災害医療の経験やその対策に関し、多くの知識・スキルを有している。既存の科目にこれらの救急分野での講義を加えることで、経験を基にした立体的な学習ができる。連携大学作成のその大学に特化した得意分野のコンテンツをオンデマンドで用いるなど、新規性・独創性が高い。								
指導体制	熊本大学救急領域教員、鹿児島大学麻酔科・救急集中治療部教員等による講義資料作成と抗議の実施。評価は鹿児島大学教員が行う。								
開始時期	令和5年5月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次								0
	2年次								0
	3年次								0
	4年次		124	115	120	118	118	118	713
	5年次								0
	6年次								0
									0
	計	0	124	115	120	118	118	118	713

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。